

施設概要

設計監理	株式会社 千田建築設計
施工	岡谷・松本土建・正澤・開田 特定建設工事共同企業体
建物の構造	木造（一部鉄骨）鋼板葺平屋建て
建物の規模	長さ 108.650 m 幅 31.30 m 高さ 9.746 m（最大値）
面積	敷地面積 17,892.11㎡ 室内面積 2,772.93㎡ (庁舎棟 2,573.73㎡ 設備棟 109.77㎡ 備蓄棟 89.43㎡)
建設工事費	本体建設 12億 2,869万円 町有林材加工費・支給材購入 8,598万円 自然エネルギー等（チップボイラー含む） 1億 2,880万円 備蓄棟建設 3,322万円 製作家具・備品等 7,843万円 設計監理 8,255万円 計 16億 3,767万円

財源	県合併特例交付金 3,780万円 林業・木材産業成長産業化促進対策交付金 2,761万円 木質空間整備事業補助金 38万円 指定寄付金 270万円 町債（合併特例債） 14億 6,670万円 一般財源 1億 248万円 計 16億 3,767万円
木材使用量	※各団体からの寄付材・家具等 ヒノキ（大黒柱2本・丸太柱1本・柱梁等40本）・ サワラ10本・懸魚・応接会議室家具・衝立

全体	896.95㎡
構造材（柱・梁等（ヒノキ・カラマツ））	334.13㎡
板材・その他羽柄材（サワラ板・構造用合板等）	562.82㎡
うち町有林全体	185.48㎡
うち町有林構造材	136.96㎡
うち町有林板材	48.52㎡
※町有林は、全体で20.68%・構造材で40.99%を使用	

建設の主な経過

平成28年10月～平成29年6月	意見集約：町民懇話会等（54回・延べ1,560人）
平成29年1月～平成29年2月	意見集約：中学生・高校生（76件）、町民（67件）
平成29年3月～令和3年2月	建設検討委員会（委員20名・14回開催）
平成28年11月～令和2年10月	庁内プロジェクト会議（理事者、課長・13回開催）
平成28年12月～令和2年9月	議会全員協議会・議会庁舎特別委員会（19回開催）
平成30年7月～平成31年3月	ワークショップ開催 木造住宅推進協議会（2回（出築造、モックアップ）） 日義中・木曽青峰高校（2回）
平成29年7月	基本構想策定
平成29年9月～平成29年12月	公募型プロポーザル（設計提案）を実施 （株式会社千田建築設計に決定）
平成30年1月～平成30年5月	基本設計業務
平成30年6月～令和元年9月	実施設計業務
令和元年9月～令和3年1月	木曽町役場本庁舎・防災センター建設工事入札・契約 （岡谷・松本土建・正澤・開田 特定建設工事共同企業体）
令和3年2月	木曽町役場新庁舎竣工式
令和3年4月	木曽町役場新庁舎開庁

地図



木 曽 町 役 場

KISO

TOWN

OFFICE

防災広場側の外観
本棟造りの緩い勾配の大屋根の上に越屋根が並び特徴的な建ち方です





ごあいさつ 木曾町長 原 久仁男

木曾町役場本庁舎・防災センターは、平成28年から本格的な協議を重ね、平成29年7月に基本構想を策定し、公募型プロポーザル（設計提案）により204社の中から設計業者を決定しました。基本構想時から木曾産材の木材を確保するために町有林の伐採等を進め、令和元年9月に着工してからは、施工業者や木材加工業者はじめ多くの皆様の献身的なご協力をいただき、令和3年2月22日に竣工を迎えることができました。これも町民の皆様をはじめ関係各位の温かいご理解とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

平成17年11月1日の4町村合併から仮庁舎として使用してきた本庁舎は、手狭で複雑な構造であるとともに保健福祉課・教育委員会が別庁舎で窓口が一本化されておらず、利用者の皆様には大変ご不便をおかけしていました。

竣工を迎えた新庁舎は、町民の皆様の利便性を第一に考えたワンストップ窓口とするとともに、防災センター機能や交流スペース等を備えています。また、全体木材使用量897㎡のうち柱や梁等の構造材に334㎡の無垢材を使用しております。特に木曾特産の「木曾ヒノキ」と今後利用促進を進めたい町内民有林の3割を占める「カラマツ」をふんだんに使用し、木曾地域の伝統的な「出し梁造り」等の工法を用いた、全長108mの長大な木造（一部鉄骨）鋼板葺平屋建ての建物となります。さらに、この本庁舎には、地域資源を無駄なく利用できる木質チップバイオマスボイラー（冷暖房）を導入しており、伐採された丸太の全てを使用する環境に配慮した、他に例のない先進的な建築物となっています。

今回の建設に当たっては、町議会、建設検討委員会、木造住宅推進協議会等の各関係団体、町内の幼稚園、保育園、小中学校、木曾青峰高校、長野県松本技術専門学校、長野県林業大学校など、子どもから大人まで多世代の皆様に関わっていただき、開かれた形で建設を進めることができました。また、ヒノキの大黒柱・丸太柱やサワラの壁板材等を各団体からご寄付いただきました。改めて関係各位の皆様にご感謝を申し上げます。

今後、各種手続きを行う執務室や「きそラボ」・「はぐくみひろば」・「待合の間」等の交流スペースを町民の皆様が大いに活用していただき、多くの皆様が利用しやすく集まりやすい本庁舎になるように努めてまいりますので、今後とも皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。



健診などに利用できる「はぐくみひろば」
カラマツの傾斜天井が柔らかく覆い、ヒノキの床材で裸足で遊ぶことができます



気軽に利用できる多目的スペース「きそラボ」
様々なサイズのテーブルが配され、学習などもできる憩いの場です



約110m続く防災広場側の「軒下空間」
約4m張り出した屋根を片持ちの出梁が支えています



ヒノキに囲われた「大会議室（議場）」
木曾産の無垢材で構成する木製トラスが大屋根を支える大空間です



可動間仕切を備えた多様な使い方ができる「防災センター」
大型のプロジェクターや会議システムを備えています



応接会議室と一体化した「町長室」
ヒノキとカラマツ材に囲われた木曾らしい印象的な空間です



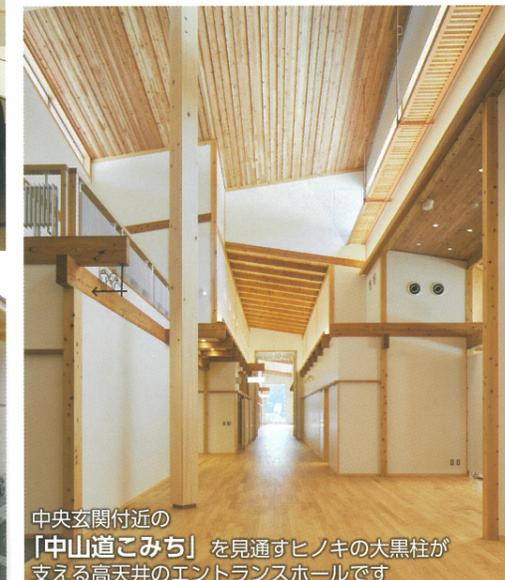
正面玄関入って直ぐの「待合の間」
天井が高く薪ストーブのあるタイル敷きの大広間が来庁者を大らかに迎えます



執務室から建物中央を中廊下状に貫く「中山道こみち」を見通す
両脇に各課が並びワンストップ窓口となっています



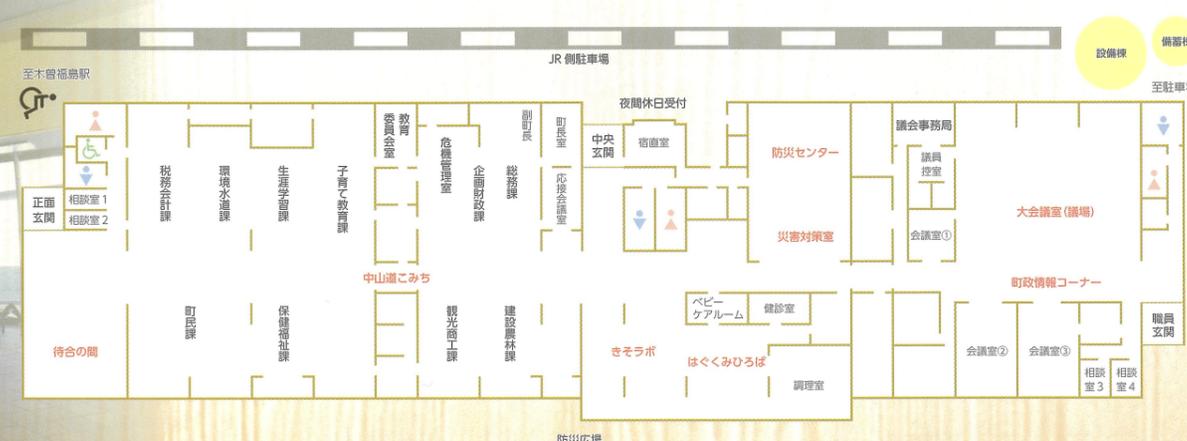
夏と冬の冷暖房をまかなう「木質バイオマスボイラー」と「チップサイロ」です



中央玄関付近の「中山道こみち」を見通すヒノキの大黒柱が支える高天井のエントランスホールです



地元の木と技でつくる「木の國木曾」



無垢材を使った大規模木造建築